

菅茶山 顕彰会 会報

第 23 号
発 行

菅茶山顕彰会
2013年3月1日



式表彰第二十回展覧絵画エムポ

茶山ポエム絵画展回顧

菅茶山顕彰会会長 高橋孝一

本年「茶山ポエム絵画展」が二十回目の節目を迎えるにあたり、ポエム絵画展の二十年の歩みを回顧したい。

神辺の人で菅茶山を知らない人はいないであろうが、茶山の事蹟、ことに漢詩については近寄りたいたいと敬遠されがちであった。本会としても、より多くのの人に、ことに児童生徒に茶山詩に親しんでもらいたいとの思いがあったが、茶山詩を児童生徒が理解することは容易なことではなかった。

そのころ、「まんが物語・神辺の歴史」(中山善照シナリオ・構成 神辺を元氣にする会 一九九二年)が発刊され話題になった。そのまんが物語「菅茶山」の章に、中山氏訳の子ども向けに現代語訳された茶山詩が書かれていた。平成五年(一九九三)、これがヒントになり、このような茶山詩(茶山ポエム)を子供たちに提供し、詩をイメージした絵を描いてもらい、「茶山ポエム絵画展」を催す企画がもちあがった。

菅茶山記念館との共催で、町内小中高の先生を含めて実行委員会を立ち上げ、茶山ポエムを八首作り、町内の児童生徒全員(五千部)に配布して絵を募集した。夏休み明けに六二七点の作品が集まった。作品審査を縄稚輝雄先生にお願いし、「最優秀賞・優秀賞・入選」を選んで表彰も行い、入賞作品をすべて菅茶山記念館に展示して、第一回目の絵画展を開催することができた。

以後、福山市教育委員会、深安地区医師会、神辺町歯科医有志、(財)義倉、(財)渋谷育英会、(財)ひろしま文化振興財団の格別のご後援をいただき、「茶山ポエム絵画展」は本顕彰会の最大の事業として毎年開催されてきた。作品応募は福山市内はもとより、市外にも広がり、幼稚園も加わり、量質ともにその規模が拡大し出品数も三千点を超えるにいたり、市内の子ども文化として定着していった。

絵画展の会場も、菅茶山記念館から移動して、ふくやま美術館展、かんなべ町並み格子戸展、神辺文化会館展、町内医院・歯科医院展、県庁ギャラリー展・市役所ギャラリー展、さらに近隣の文化施設への移動展など近隣各地へ広がり、地域の風物ともなった。

今回、諸々の事情により、本年の第二十回展をもって、一応の区切りをつけ、今後は新しい仕組みのもとに伝統あるポエム絵画展が継承されることになるが、二十年間にわたって審査員長をお務め頂いた縄稚先生、児童生徒にご指導いただいた関係の学校、さらに、共催・後援をいただいた各種団体に対し、深く敬意を表し感謝申し上げる次第である。